

新しい不動産学部論集の発刊にあたって

明海大学 不動産学部
学部長 中城康彦

明海大学不動産学部は1992年4月に創設されました。6年後の1998年4月に大学院不動産学研究科修士課程を、さらに2年後の2000年4月には博士後期課程を創るとともに修士課程を博士前期課程と改称しました。この間、日本で唯一の学部・研究科として不動産学の研究と教育に取り組んできました。

学部の目的について、石原舜介初代不動産学部長は、土地・建物は人間の生存の根本にかかわる事柄であり、「土地・建物と人間の関わり」をテーマに、法律、経済・経営、建築・土木・都市工学などの重なり合う部分を一つの学問として構成すること、と述べています。

不動産学部論集は学部が創設された初年度末の1993年3月、不動産に関する教員の最新の研究成果をまとめ、各分野間の議論の場を提供することにより、「不動産学」の発展に寄与することを目的に創刊され、このたび、第28号を発行するにいたりました。この間、社会経済情勢の変化による学問的な関心の変遷や大学に対する役割期待の変容を受けつつも、「不動産学」の発展の足跡を論集にとどめてまいりました。

これまでの成果を踏まえ、このたび、投稿規程等を見直して明確にし、論文の質的向上を図ることといたしました。通巻第28号2020年は新しい不動産学部論集です。今後、より論集の一層の充実に心がけてまいります。